



エコアクション21 環境経営レポート



対象期間 2023年04月～2024年03月

発行日 2024年05月29日

改訂日 2024年09月06日

 **SMC プレコンクリート 株式会社**

目 次

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲	1
3. 環境経営方針	2
4. 環境経営目標	3
5. 実施体制及び役割・責任・権限	4
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価	7
8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	11
9. 社会奉仕活動	13
10. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟など	13
11. 代表者による全体の評価と見直し・指示	14

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

SMCプレコンクリート株式会社

代表取締役社長 加納 嘉

(2) 所在地

本店：東京都中央区新川2丁目27-1 東京住友ツインビルディング 東館18階

栃木工場：栃木県下野市仁良川1700番地

茨城工場：茨城県常総市大生郷町6138番地8

茨城支店：茨城県常総市大生郷町6138番地8

北関東営業所：栃木県下野市仁良川1700番

仙台営業所：宮城県仙台市青葉区大町1丁目1番6号 第1青葉ビル5階

(3) 環境管理責任者氏名及び事務局連絡先

環境管理責任者 安全環境部長 : 飯塚 宏 TEL: 03-6458-1863 FAX: 03-6260-3717

Eメール: h_iiduka@precon.co.jp

事務局長 管理部 総務課長代理 : 椎名 みどり TEL: 03-6458-1861 FAX: 03-6260-3716

Eメール: m_shiina@precon.co.jp

(4) 事業活動の内容

建設物の設計・施工及びプレキャストコンクリート部材の設計・製造

(5) 事業の規模

主要製品の生産量・出荷額 総売上高65億円/2023年度

表-1.1 事業所の従業員数と延床面積

	本店	仙台営業所	栃木工場 北関東営業所	茨城工場 茨城支店	工事部
従業員数	49名	2名	58名	40名	11名
延床面積	422.72m ²	40 m ²	14,616 m ²	11,686 m ²	「本店」の延床面積に含まれる

2. 対象範囲

(1) 登録組織名及び対象範囲

- 登録組織名：SMCプレコンクリート株式会社
- 対象範囲：全組織・全活動

3. 環境経営方針

SMC プレコンクリート株式会社 環境経営方針

環境理念

SMCプレコンクリート株式会社は、環境に配慮した技術開発や設計提案を通して、建設活動に対する多様な要請に応え、地球規模での環境への貢献が求められていることを認識し、環境の保全、維持、改善に積極的に取り組みます。

環境方針

経営における課題とチャンスを踏まえるとともに、次を行動指針として取り組みます。

1. 節電と省エネルギー化を進め、CO₂排出量の削減・地球温暖化防止に努めます。
2. 資源の有効利用を図り、廃棄物の削減と再生利用に努めます。
3. 節水活動に取り組み、水使用量の削減に努めます。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. 環境に配慮した建設工事、プレキャストコンクリート部材の製造・販売に努めます。
6. 環境関連の法令・条例等を遵守し、継続的な環境活動の改善を図ります。

全従業員及び当社で従事する全ての人々に対して環境方針の周知を図ると共に、協力会社に本方針の周知と協力を徹底します。

2023年6月30日

 **SMC プレコンクリート株式会社**

代表取締役社長 **加納 嘉**

4. 環境経営目標

(1) 2023年度の環境経営目標

単年度の環境経営目標として、次のa.～e.を定めた。

- a. CO₂排出量：購入電力、ガソリン、軽油、プロパンガス、及びA重油によるCO₂排出量^{※1}を3%削減する
- b. 廃棄物排出量：一般廃棄物及び産業廃棄物排出量を3%削減とする
- c. 水使用量：水の使用量を3%削減とする
- d. 化学物質使用量：使用数量管理の徹底
- e. 工事及び製造：環境対策工事、環境対策部材製造の提案又は実施した件数2以上

(2) 中期環境経営目標

2021年度から2025年度までの中期環境経営目標として、次のa.～e.を定めた。

- a. CO₂排出量：購入電力、ガソリン、軽油、プロパンガス、及びA重油によるCO₂排出量^{※1}を5%削減する
- b. 廃棄物排出量：一般廃棄物及び産業廃棄物排出量を5%削減する
- c. 水使用量：水の使用量を5%削減する
- d. 化学物質使用量：使用数量管理の徹底
- e. 工事及び製造：環境対策工事、環境対策部材製造の提案又は実施した件数6以上

※1 CO₂排出量の目標値は、それぞれの使用量により管理する

(3) 基準年の環境負荷項目と環境負荷量

基準年は、2020年度（2020年4月～2021年3月）とし、その環境負荷総量を表-4.1に示す。本店の実績値は、本店事務所と営業所（仙台・いわき）を加算した値である。

表-4.1 基準年の環境負荷項目と環境負荷量

テーマ	環境負荷項目	2020年度の環境負荷量					
		単位	全社	本店	栃木工場	茨城工場	工事部 ^{注2}
CO ₂ 排出量	購入電力	kWh	2,105,428	42,844	1,243,097	802,465	17,022
	ガソリン使用量	L	11,771	5,448	4,888	1,398	36
	軽油使用量	L	55,888	0	46,191	8,762	935
	A重油使用量	L	420,100	0	0	420,100	0
	プロパンガス使用量	kg	174,415	0	174,381	^{注1} 34	0
	CO ₂ 2排出量	ton-CO ₂	2,404	32	985	1,378	10
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量	kg	11,032	2,013	4,164	4,855	0
	産業廃棄物排出量	ton	9,168	0	5,240	3,627	301
総排水量	水使用量	m ³	80,798	0	59,926	20,659	213
化学物質	化学物質使用量	kg	139	0	0	139	0
工事及び製造	環境対策工事、環境対策部材製造の提案又は実施した件数	件	2	全社として把握			

注1：茨城工場のプロパンガス使用量は、総量把握とし削減目標を設定しない

※ CO₂排出係数は下記の調整後の係数を使用した

本店、工事部：2020年 東京電力エナジーパートナー(株)（参考値）事業者全体 0.441 kg-CO₂/kWh

栃木工場、茨城工場：2020年 リコージャパン(株) メニューC 0.266 kg-CO₂/kWh

注2：工事現場で使用した購入電力等を示す

5. 実施体制及び役割・責任・権限

(1) 実施体制

環境経営システムの実施体制は、図-5.1の通りである。

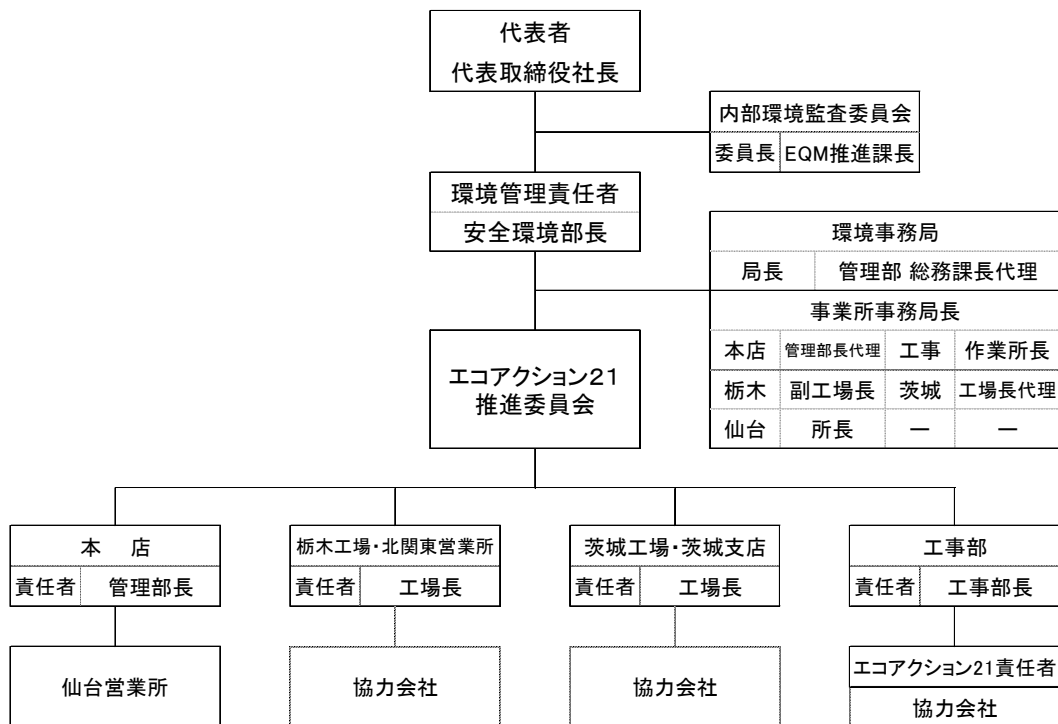


図-5.1 環境経営システムの実施体制

(2) 実施体制における役割・責任及び権限

環境経営システムの実施体制における役割・責任及び権限は、表-5.1の通りである。

表-5.1 実施体制における役割・責任及び権限

	役割・責任・権限
代表者（社長）	a. 『環境経営方針』を定める b. 環境管理責任者を任命し、実施体制を構築する c. 環境経営システムの実施及び管理に必要な経営資源（人員、設備、費用等）を用意する d. 『環境経営レポート』を承認する e. 全体の評価と見直しを実施し、必要な指示を行う
環境管理責任者	a. 環境経営システムを構築し、維持する b. 社外からの環境に関する苦情や要望に対する必要な対応・回答を行う c. 環境経営計画の進捗状況を確認・評価する d. 全体の見直しに必要な情報を代表者へ報告する e. 『環境経営レポート』を確認する
環境事務局	a. 環境管理責任者及びサイト責任者の補佐、E A 2 1 推進委員会の事務局 b. 各月の資料取りまとめ及び整理を行い各担当者への周知、必要に応じて資料等を配布する c. 『環境経営レポート』を作成し、公開する（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
E A 2 1 推進委員会	a. 環境経営目標・環境経営計画を審議する b. 環境活動実績を確認し評価する
サイト責任者	a. 環境経営方針及び各自の役割、責任及び権限をサイト内従業員へ周知・徹底する b. 事務局と協議し、教育・訓練を実施する c. 『環境経営計画』に従った取り組みを実施し、必要な記録を作成し報告する
エコアクション21責任者	a. 環境経営計画の実施・環境関連法規を遵守する b. 新規入場者教育、近隣住民とのコミュニケーション、緊急事態対応
内部環境監査委員会	a. 環境に関する内部監査を計画する b. 環境に関する内部監査を実施し結果を報告する
全従業員	a. 環境経営方針を理解し、環境への取り組みの重要性を自覚する b. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

(1) 環境経営計画に基づき実施した取組内容

各サイトの2023年4月から2024年3月までの、環境経営計画及び環境経営計画に基づき実施した取組内容を表-6.1から表-6.4に示す。

表-6.1 環境経営計画に基づき実施した取組内容【本店】

環境負荷項目	単位	2020年度 基準年 実績	中期目標 (目標削減率) 目標値	2023年度 (目標削減率) 目標値	環境経営計画	実施した取組内容
購入電力	kWh	42,844	(△5.0) 40,702	(△3.0) 41,559	1. 昼休み時、不必要時の事務所消灯の徹底 2. クールビズ、ウォームビズの取組継続	1. 昼休み時不必要事務所の消灯を実施 2. クールビズの実施
ガソリン 使用量	L	5,448	(△5.0) 5,176	(△3.0) 5,285	1. エコ安全運転の執務室掲示、車内常備 2. アイドリングストップの励行 3. 営業活動時の営業車両と公共交通機関の効率的利用による車両利用時間短縮	1. エコドライブ関連資料の掲示と車内の常備を継続 2. アイドリングストップを実施 3. 営業活動時の公共交通機関の利用を効率的に併用
一般廃棄物 排出量	kg	2,013	(△5.0) 1,912	(△2.0) 1,972	1. ペーパーレス会議の継続 2. 届出書式等のワークフローの継続とワークフロー対象範囲の拡大 3. 紙出力削減のための文書保存方法の検討と実施	1. 会議のペーパーレス化を継続実施 2. 届出書式のワークフロー利用の継続 3. コピー機の使用枚数削減

表-6.2 環境経営計画に基づき実施した取組内容【栃木工場】

環境負荷項目	単位	2020年度 基準年 実績	中期目標 (目標削減率) 目標値	2023年度 (目標削減率) 目標値	環境経営計画	実施した取組内容
購入電力	kWh	1,243,097	(△5.0) 1,180,942	(△2.0) 1,218,235	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の継続実施 2. エアコンの設定温度目安の設定(室内温度) (夏期：28℃、冬期：20℃)他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 費用対効果を考慮し再生可能エネルギー比率の増加を検討する	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯を実施した 2. 室内温度を夏期：28℃、冬期：20℃とした。 3. クールビズ、ウォームビズを実施した
ガソリン 使用量	L	4,888	(△5.0) 4,644	(△3.0) 4,741	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない 3. タイヤ空気圧の適宜確認	1. 営業車両による経路効率化を実施 2. アイドリングストップを実施
軽油使用量	L	46,191	(△5.0) 43,881	(△2.0) 45,267	1. プラント周辺でのコン待ち待機時のアイドリングストップの徹底 2. 場内速度の厳守	1. 待機時のアイドリングストップを実施 2. 場内速度の厳守を実施
プロパンガス 使用量	kg	174,381	(△5.0) 165,662	(△2.0) 170,893	1. 外気温管理による養生有無の適正管理 2. 蒸気漏れ等、設備からのロス低減	1. 夏季の蒸気養生を削減した 2. 蒸気漏れ等の設備点検を実施
一般廃棄物 排出量	kg	4,164	(△5.0) 3,956	(△1.0) 4,122	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進	1. 個人ごみの持ち込みの監視、持ち帰り徹底を周知 2. コピー用紙の裏面再利用の徹底
産業廃棄物 排出量	ton	5,240	(△5.0) 4,978	(△2.0) 5,135	1. 廃棄物分別の強化 2. 定期的な処分費の公開による意識改革の継続実施 3. コンクリートロスの低減、資材発注時の無駄の排除	1. 廃棄物分別の指導を実施 2. 処分費用の安全衛生委員会での報告を継続実施 3. 余剰コンクリートの発生抑止の指導を実施
水使用量	m ³	59,926	(△5.0) 56,930	(△1.0) 59,327	1. 節水の励行 2. 不必要な放水の禁止	1. 安全衛生委員会に節水励行を指導した 2. 設備の定期点検実施
化学物質 使用量	kg	0	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理 2. 数量管理の徹底	1. 作業手順書に従い管理 2. 月次使用量の管理実施

表-6.3 環境経営計画に基づき実施した取組内容【茨城工場】

環境負荷項目	単位	2020年度 基準年 実績	中期目標 (目標削減率) 目標値	2023年度 (目標削減率) 目標値	環境経営計画	実施した取組内容
購入電力	kWh	802,465	(△5.0) 762,342	(△2.0) 786,416	1. 昼休み時、不要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定目安の温度の設定(夏:28度、冬20度)及びクールビズウォームビズの取り組み継続 3. 100%カーボンフリー電力導入の検討	1. 昼休み時、不要時の事務所、工場内、休憩所の消灯を実施した 2. エアコンの設定目安温度を遵守した
ガソリン使用量	L	1,398	(△5.0) 1,328	(△2.0) 1,371	1. アイドリングストップの励行 2. 急発進、急加速をしない	1. アイドリングストップを実施した 2. 急発進、急加速をしないことを徹底した 3. タイヤの空気圧の適宜確認を実施した
軽油使用量	L	8,762	(△5.0) 8,324	(△3.0) 8,499	1. アイドリングストップの励行 2. 急発進、急加速をしない	1. アイドリングストップを実施した 2. 急発進、急加速をしないことを徹底した 3. タイヤの空気圧の適宜確認を実施した
A重油使用量	L	420,100	(△5.0) 399,095	(△3.0) 407,497	1. 外気温の管理による養生有無の適正管理 2. 老朽化した養生温度制御装置の更新による細分化効率制御の実施	1. 外気温の管理により養生の有無の適正な判断を実施した 2. 機器の選定とシステムの構築を検討した
一般廃棄物排出量	kg	4,855	(△5.0) 4,612	(△3.0) 4,709	1. 個人ゴミの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進 3. 効率のよいゴミの搬出	1. 個人ゴミの持ち込みの注意喚起を実施した 2. ゴミの分別及び搬出する際のゴミ袋の数の削減を図った 3. コピー用紙の有効活用を実施した
産業廃棄物排出量	ton	3,627	(△5.0) 3,445	(△2.0) 3,554	1. 作業ミスによるPC部材の廃棄物量の削減 2. 廃棄物分別の徹底	1. 作業ミスによる廃棄物量の削減に努めた
水使用量	m ³	20,659	(△5.0) 19,626	(△3.0) 20,039	1. 節水の励行 2. 設備点検を適宜実施し、漏水事故を未然に防ぐ	1. 節水の励行を実施した 2. 場内水回りの点検を適宜実施し漏箇所は即修繕工事を実施した
化学物質使用量	kg	139	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順の遵守 2. 数量管理の徹底	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理を実施した 2. 数量管理を徹底した

表-6.4 環境経営計画に基づき実施した取組内容【工事部】

環境負荷項目	単位	2020年度 基準年 実績	中期目標 (目標削減率) 目標値	2023年度 (目標削減率) 目標値	環境経営計画	実施した取組内容
購入電力	kWh	17,022	(△5.0) 16,171	(△3.0) 16,511	1. 昼休み、不要時の事務所と詰所の消灯を実施する。 2. エアコンの設定温度、夏28℃、冬20℃を継続して実施する。 3. クールビズ、ウォームビズに取り組む。 4. 工期短縮による、仮設電気の早期撤去を実施する。	1. 昼休み、不要時の現場事務所、作業員詰所の消灯を実施 2. 現場事務所をコンパクトにし、冷暖房効果を高めた。 3. クールビズ、ウォームビズを実施した。
ガソリン使用量	L	35.9	(△5.0) 34.0	(△2.0) 35.2	1. アイドリングストップの励行 2. 急発進、急加速をしない	1. 発電機を使用する工事がなかった。
軽油使用量	L	935	(△5.0) 888	(△3.0) 907	1. 発電機の使用を抑えるような、工事計画を立てる。 2. 発電機を使用する場合は、不要な時のこまめなエンジン停止を実施する。	1. 発電機を使用する工事がなかった。

環境負荷項目	単位	2020年度 基準年 実績	中期目標 (目標削減率) 目標値	2023年度 (目標削減率) 目標値	環境経営計画	実施した取組内容
産業廃棄物 排出量	ton	301	(△5.0) 286	(△1.0) 298	1. 作業ミスによる廃棄物の発生を抑える。 2. 資材発注時の無駄をなくす。 3. 廃棄物の分別の実施。 4. 一般ごみの持ち帰りの実施。	1. 作業ミスによる廃棄物の発生を抑えた。 2. 昼食の弁当ゴミ、一般ごみは持ち帰りを徹底した。 3. 塗料、防水材の空き缶、木、サッシ、ガラス、ガラ等の分別を徹底した。
水使用量	m ³	213	(△5.0) 202	(△2.0) 209	1. 高圧洗浄施工時の無駄をなくす。 2. 事務所、現場手洗い場での節水の表示。	1. 高圧洗浄時にこまめに止水を実施。 2. 現場手洗い場、事務所流しの節水の表示を実施。
環境対策工 事、環境対策 部材製造の提 案又は実施し た件数	件	2		2	1. UR入札時に、「環境配慮に関する取り組み」を積極的に提案する。 2. 環境負荷低減につながる資材、材料を使用する。	1. UR入札時に、環境に関する取り組みの提案を実施した。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

各サイトの2023年4月から2024年3月までの、環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価を表-7.1から表-7.5に、図-7.1に年度別エネルギー使用量、図-7.2にCO2排出量、図-7.3に環境負荷の排出量及び使用量を示す。

表-7.1 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【本店】

環境負荷項目		2023年度 (目標削減率) 目標値	取組結果 (実績削減率) 実績値	評 価
エネルギー 使用量	購入 電力	(△3.0) 41,559 kWh	(△58.3) 17,845 kWh	月次総量評価達成（基準年比▲24,999kwh） 空調機利用制限および積極的な節電に取組み、電力使用量が減少した。 次年度も継続的に節電に取組む。
	ガソリン 使用量	(△3.0) 5,285 L	(△24.0) 4,143 L	月次総量評価達成（基準年比▲1,305L）営業車両の効率的利用、公共 機関利用により年間を通し目標が達成できた。
CO2排出 量	総量 (ton-CO2)	(△3.0) 30.6	(△44.0) 17.5	月次総量評価にて目標達成
	原単位 (ton-CO2/人)	(△3.0) 0.055	(△44.0) 0.032	各負荷項目の削減により目標達成
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	(△2.0) 1,972 kg	(△9.4) 1,824 kg	月次総量評価達成（基準年比▲189kg）ワークフロー によるペーパーレス化、個人ゴミの削減に努める

表-7.2 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【栃木工場】

環境負荷項目		2023年度 (目標削減率) 目標値	取組結果 (実績削減率) 実績値	評 価
エネルギー 使用量	購入 電力	(△2.0) 1,218,235 kWh	(△13.3) 1,077,909 kWh	月次総量評価達成（基準年比▲165,188kwh） 当期生産量減少により電力使用量が減少した。
	ガソリン 使用量	(△3.0) 4,741 L	(△7.8) 4,505 L	月次総量評価達成（基準年比▲383L） 環境経営計画の遵守を継続する
	軽油 使用量	(△2.0) 45,267 L	(△18.7) 37,545 L	月次総量評価達成（基準年比▲8,646L） フォークリフトのアイドリングストップの指導を継続する
	プロパンガス 使用量	(△2.0) 170,893 kg	(△18.7) 129,466 kg	月次総量評価達成（基準年比▲44,915Kg） 生産量減少、夏季無養生効果により大幅減となった
CO2排出 量	総量 (ton-CO2)	(△3.0) 955	(△20.5) 783	月次総量評価にて目標達成

環境負荷項目		2023年度 (目標削減率) 目標値	取組結果 (実績削減率) 実績値	評 価
	原単位 (ton-CO2/m ³)	(△3.0) 0.026	(+44.3) 0.038	各項目の使用量(総量)は減少したが、生産量の落ち込みにより原単位では目標未達となった
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	(△1.0) 4,122 kg	(△2.0) 4,080 kg	月次総量評価達成(基準年比▲84Kg) 個人ごみの持ち帰り指導を継続する
	産業廃棄物 排出量	(△2.0) 5,135 ton	(△10.6) 4,684 ton	月次総量評価達成(基準年比▲556Ton) 廃棄物の分別指導を継続する
水使用量		(△1.0) 59,327 m ³	(△7.1) 55,685 m ³	月次総量評価達成(基準年比▲4,241m ³) 節水励行の指導を継続する
化学物質使用量		—	266 kg	基準年度実績なし 環境経営計画に基づき、適正管理を実施する

表-7.3 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【茨城工場】

環境負荷項目		2023年度 (目標削減率) 目標値	取組結果 (実績削減率) 実績値	評 価
エネルギー 一使用量	購入 電力	(△2.0) 786,416 kWh	(+4.4) 837,538 kWh	業務稼働時間等の増により目標未達。業務の効率化と工場内不要電灯の消灯の継続実施。(目標比106.5%)
	ガソリン 使用量	(△2.0) 1,371 L	(+94.6) 2,722 L	業務量増に伴うリース車両の増加及び使用量増等により、目標未達。状況に合わせてリース車両台数を削減する。(目標比198.5%)
	軽油 使用量	(△3.0) 8,499 L	(+68.3) 14,749 L	業務量増に伴うリース車両の増加及び使用量増等により、目標未達。状況に合わせてリース車両台数を削減する。(目標比173.5%)
	A重油 使用量	(△3.0) 407,497 L	(△28.4) 300,700 L	外気温の変化による養生有無の適正管理等により目標達成したが、老朽化した養生温度制御装置の更新も実施中。(目標比73.8%)
CO2排出 量	総量 (ton-CO2)	(△3.0) 1,337	(△21.5) 1,082	各項目の使用量(総量)減により目標達成した。
	原単位 (ton-CO2/m ³)	(△3.0) 0.055	(+3.9) 0.055	生産量が減となったため目標が未達となった。
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	(△3.0) 4,709 kg	(△8.6) 4,437 kg	個人ゴミの持ち込み禁止の徹底と効率のよいゴミの搬出により、目標達成。引き続き環境経営計画を遵守する。(目標比94.2%)
	産業廃棄物 排出量	(△2.0) 3,554 ton	(+100) 7,255 ton	PC部材の不適合、不具合等によりPC部材の廃棄物量が大幅に増加し、目標未達。検査等の作業手順の再確認を徹底し、PC部材の廃棄物量の削減に努める。(目標比204.0%)
水使用量		(△3.0) 20,039 m ³	(△17.0) 17,154 m ³	節水の奨励と設備点検等の実施による漏水の未然防止により、目標達成。引き続き環境経営計画を遵守する。(目標比85.6%)
化学物質使用量		—	672 kg	作業手順を遵守し、現場でのSDS管理を行う。

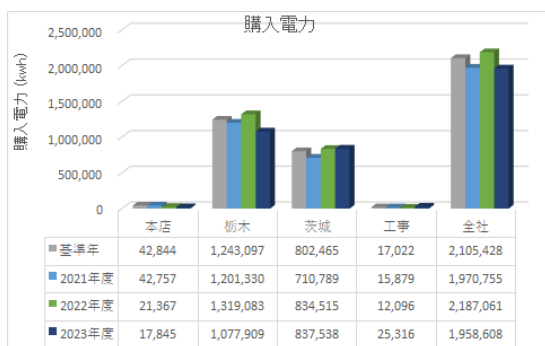
表-7.4 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【工事部】

環境負荷項目		2023年度 (目標削減率) 目標値	取組結果 (実績削減率) 実績値	評 価
エネルギー 一使用量	購入電力	(△3.0) 16,511 kWh	(+48.7) 25,316 kWh	工事量の増加に伴い、月次総量評価は未達成となった。(+8,805KWh) 原単位の目標値は厳守していきたい。
	ガソリン 使用量	(△2.0) 35.2 L	(△44.3) 20.0 L	月次総量評価達成。(▲15.20) 仮設計画において、効率を検討し発電機ではなく、仮設電源を設置する。
	軽油 使用量	(△3.0) 907 L	(△94.0) 56.0 L	月次総量評価達成。(▲8510) 仮設計画において、200Vの仮設電源を引き込み、発電機での軽油の使用量を減らすようにする。
CO2排出 量	総量 (ton-CO2)	(△3.0) 9.7	(+13.6) 11.4	受注金額が大幅に増大したため目標未達となった 引き続き省エネに努める。
	原単位 (ton-CO2/M ²)	(△3.0) 0.021	(△61.4) 0.008	受注金額が大幅に増大したため目標を達成した 引き続き省エネに努める。
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	—	71 kg	今年度から、一般ごみの数量の把握に努めた。 次年度以降も、今後各現場とも一般廃棄物排出量の削減に努める。

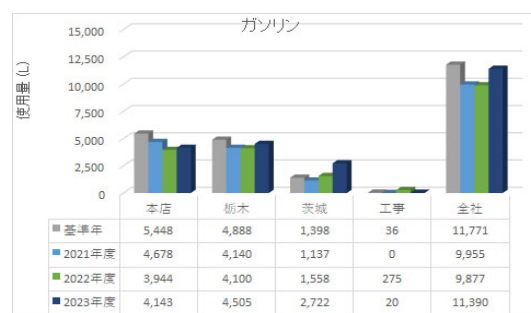
環境負荷項目		2023年度 (目標削減率) 目標値	取組結果 (実績削減率) 実績値	評価
	産業廃棄物 排出量	(△1.0) 298 ton	(+85.0) 558 ton	工事量の増加に伴い、月次総量評価は未達成となった。(＋260t)引き続きの産廃削減に努める。
	水使用量	(△2.0) 209 m ³	(+70.0) 362 m ³	工事量の増加に伴い、月次総量評価は未達成となった。(＋153 m ³)引き続きの節水に努める。

表-7.5 環境経営計画の実績・取組結果とその評価【全社】

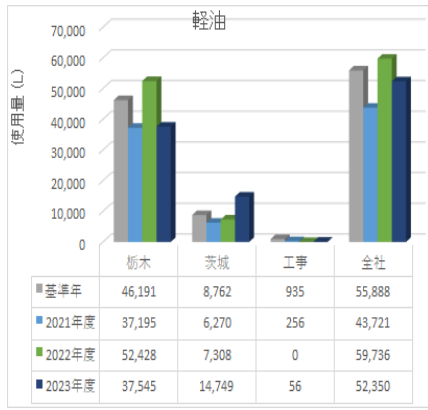
環境負荷項目		2023年度 (目標削減率) 目標値	取組結果 (実績削減率) 実績値	評価
エネルギー使用量	購入電力	(△3.0) 2,042,265 kWh	(△7.0) 1,958,608 kWh	全社において、継続的な節電の取組みに努め、一方、生産量の減少により電力使用量が減少した。
	ガソリン 使用量	(△3.0) 11,418 L	(△3.2) 11,390 L	茨城工場では目標値の2倍近い使用量であったが、本店において公共交通機関利用により目標値を達成できた。
	軽油 使用量	(△3.0) 54,602 L	(△6.3) 52,350 L	アイドリングストップの取組み、工事部でのジェネレーターを使用せず、仮設電源を使用することで軽油使用量が減少した。次年度も仮設計画において、使用する機器設備を検討、削減に努める。
	A重油 使用量	(△3.0) 407,497 L	(△28.4) 300,700 L	外気温変化による養生有無の適正管理等により使用量を削減した。老朽化した養生温度制御装置の更新も実施中。引き続き適正管理に努める。
	プロパンガス 使用量	(△3.0) 167,490 kg	(△25.0) 129,466 kg	栃木工場の生産量減少および夏季無養生効果により大幅減となり目標を達成した。
CO2 排出量	総量 (ton-CO2)	(△3.0) 2,332	(△21.2) 1,894	総売上高の激減により目標を達成したが、次年度以降は、通常の売上高により目標が達成できる体制を再構築する
	原単位 (kg-CO2/M ²)	(△3.0) 246	(+14.9) 291	総売上高の激減により目標未達
廃棄物 排出量	一般廃棄物 排出量	(△3.0) 10,701 kg	(△5.6) 10,412 kg	個人ごみの持ち帰り指導、ペーパレス化により排出量を削減した。継続的に個人ごみの持ち帰りをし、削減に努める。
	産業廃棄物 排出量	(△3.0) 8,893 ton	(+36.3) 12,496 ton	部材の不具合等により廃棄物量が大幅に増加し目標未達。次年度以降は、検査や作業手順を見直し不適合による廃棄物量を削減する。
水使用量		(△3.0) 78,374 m ³	(△9.4) 73,201 m ³	各サイトで節水を指導と漏水の未然防止対策により目標を達成した。次年度の節水と漏水の未然防止を目標とする。
化学物質使用量		—	938 kg	次年度以降も使用数量の把握を実施する。
工事及び製造		2	0	環境負荷低減による技術提案が採用されなくなった。次年度以降は、継続実施しながら取組目標の変更を検討する。



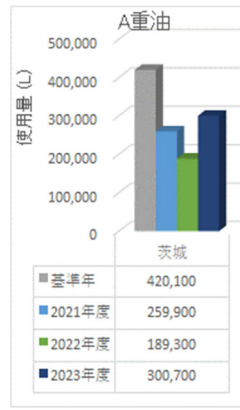
(A) 購入電力



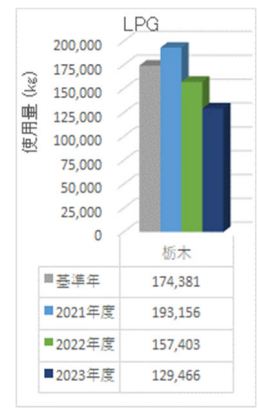
(B) ガソリン



(C) 軽油

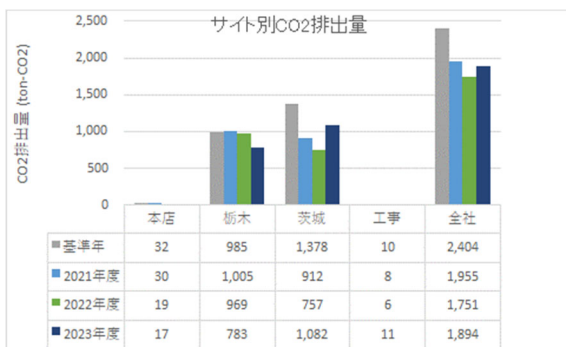


(D) A重油

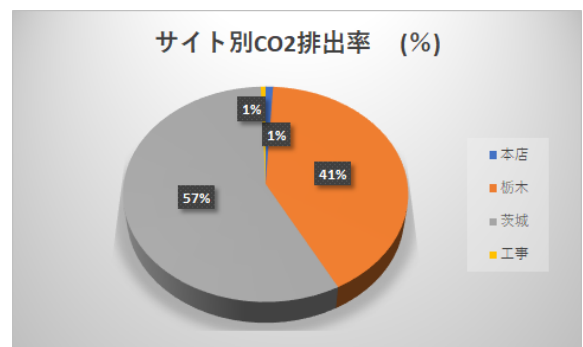


(E) LPG

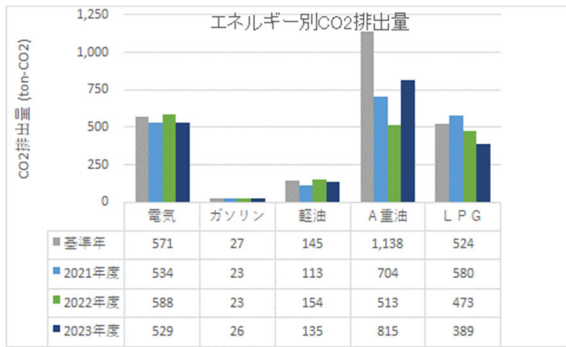
図-7.1 年度別エネルギー使用量



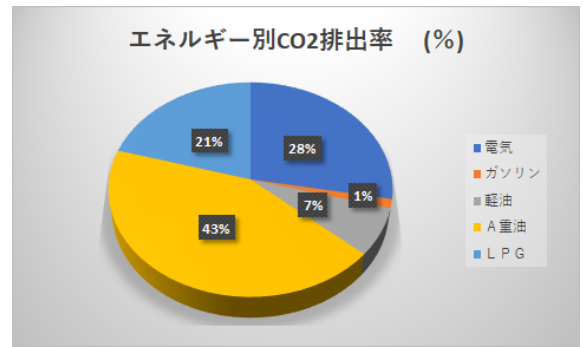
(A) サイト別CO2排出量



(B) 2023年度サイト別CO2排出率

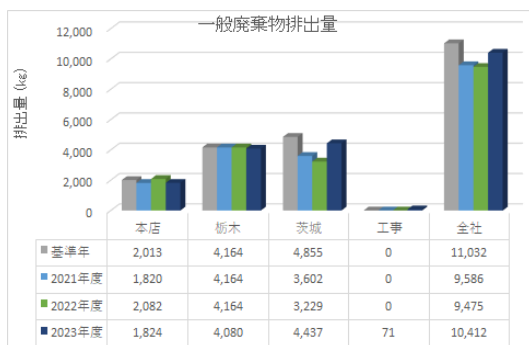


(C) エネルギー別CO2排出量

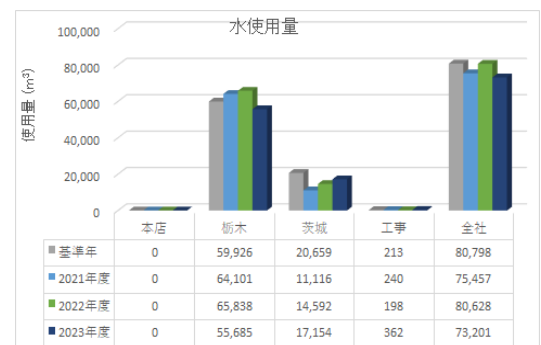


(D) 2023年度エネルギー別CO2排出率

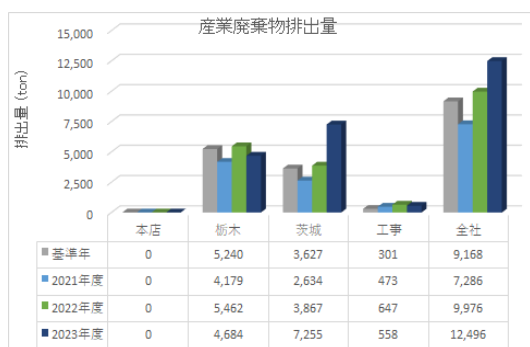
図-7.2 CO2排出量



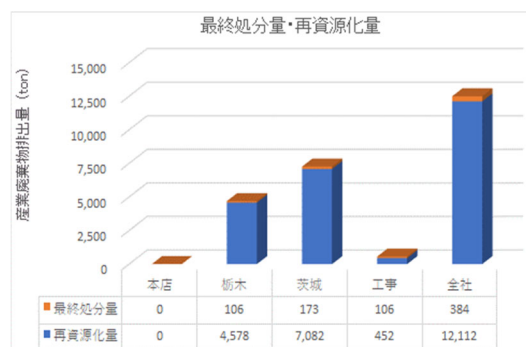
(A) 一般廃棄物排出量



(B) 水使用量



(C) 産業廃棄物排出量



(D) 産業廃棄物最終処分量・再資源化量

図-7.3 環境負荷の排出量及び使用量

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

各サイトの2024年4月から2025年3月までの、環境経営目標及び環境経営計画を表-8.1から表-8.4に示す。

表-8.1 次年度の環境経営目標と環境経営計画【本店】

環境負荷項目	単位	基準 2020年度	2024年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標値	
購入電力	kWh	42,844	△4.0	41,130	1. 昼休み時、不必要時の事務所消灯の徹底 2. クールビズ、ウォームビズの取組継続
ガソリン使用量	L	5,448	△4.0	5,230	1. エコ安全運転の執務室掲示、車内常備 2. アイドリングストップの励行 3. 営業活動時の営業車両と公共交通機関の効率的利用による車両利用時間短縮
一般廃棄物 排出量	kg	2,013	△3.0	1,952	1. ペーパーレス会議の継続 2. 届出書式等のワークフローの継続とワークフロー対象範囲の拡大 3. 紙出力削減のための文書保存方法の検討と実施

表-8.2 次年度の環境経営目標と環境経営計画【栃木工場】

環境負荷項目	単位	基準 2020年度	2024年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標値	
購入電力	kWh	1,243,097	△3.0	1,205,804	1. 昼休み時、不必要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の継続実施 2. エアコンの設定温度目安の設定（室内温度）（夏期：28℃、冬期：20℃）他クールビズ、ウォームビズの取組継続 3. 費用対効果を考慮し再生可能エネルギー比率の増加を検討する
ガソリン使用量	L	4,888	△4.0	4,692	1. アイドリングストップ 2. 急発進、急加速をしない 3. タイヤ空気圧の適宜確認
軽油使用量	L	46,191	△3.0	44,805	1. プラント周辺でのコン待ち待機時のアイドリングストップの徹底 2. 場内速度の厳守
プロパンガス 使用量	kg	174,381	△3.0	169,150	1. 外気温管理による養生有無の適正管理 2. 蒸気漏れ等、設備からのロスの低減
一般廃棄物 排出量	kg	4,164	△2.0	4,081	1. 個人ごみの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進
産業廃棄物 排出量	ton	5,240	△3.0	5,082	1. 廃棄物分別の強化 2. 定期的な処分費の公開による意識改革の継続実施 3. コンクリートロスの低減、資材発注時の無駄の排除
水使用量	m ³	59,926	△2.0	58,727	1. 節水の励行 2. 不必要な放水の禁止
化学物質 使用量	kg	0	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順書に従い管理 2. 数量管理の徹底

表-8.3 次年度の環境経営目標と環境経営計画【茨城工場】

環境負荷項目	単位	基準 2020年度	2024年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標値	
購入電力	kWh	802,465	△2.0	786,416	1. 昼休み時、不要時の事務所、工場内、休憩所の消灯の徹底 2. エアコンの設定目安の温度の設定(夏：28度、冬20度)及びクールビズ、ウォームビズの取り組み継続 3. 100%カーボンフリー電力導入の検討
ガソリン使用量	L	1,398	△2.0	1,371	1. アイドリングストップの励行 2. 急発進、急加速をしない
軽油使用量	L	8,762	△3.0	8,499	1. アイドリングストップの励行 2. 急発進、急加速をしない
A重油使用量	L	420,100	△4.0	403,296	1. 外気温の管理による養生有無の適正管理 2. 老朽化した養生温度制御装置の更新による細分化効率制御の実施
一般廃棄物 排出量	kg	4,855	△4.0	4,661	1. 個人ゴミの持ち込み廃棄厳禁 2. コピー用紙の有効利用の推進 3. 効率のよいゴミの搬出
産業廃棄物 排出量	ton	3,627	△2.0	3,554	1. 作業ミスによるPC部材の廃棄物量の削減 2. 廃棄物分別の徹底
水使用量	m ³	20,659	△4.0	19,832	1. 節水の励行 2. 設備点検を適宜実施し、漏水事故を未然に防ぐ
化学物質 使用量	kg	139	—	—	1. 化学物質適正管理作業手順の遵守 2. 数量管理の徹底

表-8.4 次年度の環境経営目標と環境経営計画【工事部】

環境負荷項目	単位	基準 2020年度	2024年度の環境経営目標		次年度の環境経営計画
			(%)	目標値	
購入電力	kWh	17,022	△3.0	16,511	1. 昼休み、不要時の事務所と詰所の消灯を実施する。 2. エアコンの設定温度、夏28℃、冬20℃を継続して実施する。 3. クールビズ、ウォームビズに取り組む。 4. 工期短縮による、仮設電気の早期撤去を実施する。
ガソリン使用量	L	35.9	△3.0	34.8	1. アイドリングストップの励行 2. 急発進、急加速をしない
軽油使用量	L	935	△4.0	897	1. 発電機の使用を抑えるような、工事計画を立てる。 2. 発電機を使用する場合は、不要な時のこまめなエンジン停止を実施する。
産業廃棄物 排出量	ton	301	△1.0	298	1. 作業ミスによる廃棄物の発生を抑える。 2. 資材発注時の無駄をなくす。 3. 廃棄物の分別の実施。 4. 一般ごみの持ち帰りの実施。
水使用量	m ³	213	△2.0	209	1. 高圧洗浄施工時の無駄をなくす。 2. 事務所、現場手洗い場での節水の表示。
環境対策工事、 環境対策部材製造の 提案又は実施した 件数	件	2		2	1. UR入札時に、「環境配慮に関する取り組み」を積極的に提案する。 2. 環境負荷低減につながる資材、材料を使用する。

9. 社会奉仕活動

栃木工場と茨城工場で実施した 2023 年度の社会奉仕活動を図-9.1 に示した。



(A) 栃木工場



(B) 茨城工場

図-9.1 社会奉仕活動状況

10. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟など

当社に適用される主な環境関連法規は表-10.1 に示す通りで、4月1日～15日遵守評価の結果、これらへの違反はありませんでした。

なお、2023 年度の関係当局よりの違反等の指摘はありませんでした。

表-10.1 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果

適用環境関連法規等	適用される事項 (事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認・評価
騒音規制法	バンディングマシーン せん断機 空気圧縮機 コンクリートプラント	届出・地域別基準遵守 問題なし
	特定建設作業	届出・地域別基準遵守 問題なし
振動規制法	せん断機 圧縮機	届出・地域別基準遵守 問題なし
	特定建設作業	届出・地域別基準遵守 問題なし
水質汚濁防止法	バッチャープラント 水養生施設（蒸気養生施設を含む）	届出・地域別基準遵守 問題なし
大気汚染防止法	ボイラー	届出・地域別基準遵守 問題なし
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物	ビル管理会社処理等 問題なし
	産業廃棄物	委託契約・標識設置等 問題なし
		多量排出事業者
建設工事に係る資材の再資源化に関する法律	特定建設資材	届出等 問題なし
消防法	危険物の規制	届出・法定点検 問題なし
	甲種防火対象物	

11. 代表者による全体の評価と見直し・指示

エコアクションの2023年度の取組は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染拡大防止のための規制緩和により、社会活動の正常化が進みましたが、原材料やエネルギー価格の高止まりや物価上昇など、先行きが不透明な中での取り組みとなりました。

目標を達成した項目については、各事業所が当社を取り巻く環境の変化の中で、スピード感を持ち、部門間の連携を図りながら、能動的、積極的に挑戦した企業活動の成果であると考えます。また、達成できなかった項目は、今後、重点的に見直し改善を図っていきます。

2021年1月に策定された、親会社の三井住友建設においてカーボンニュートラルに向けたロードマップに基づき、当社も三井住友建設グループとして、2030年のScope 1 + 2 (※1) のCo2 排出量50%削減(基準年は2020年)を目指し、さらに再生可能エネルギー事業等への取り組みによる削減貢献により、2030年に実質的にカーボンニュートラルの達成を目指します。また、前年度から、Scope 1 + 2 以外の間接排出 (Scope3) (※1) の集計を開始しており、これは、三井住友建設が関係会社を含め、気候変動問題への連結での取組について、CDP (※2) の評価を受けるため、当社のScope 1 から scope 3 までのCo2 排出量も第三者評価機関の評価を受けることから、サプライチェーンを含め、カーボンニュートラルに向けた取り組みを強化してまいります。

2024年2月にはサステナビリティに関する方針について、三井住友建設グループにおけるガバナンス強化の他サステナビリティへの取組みの一体的な目的として、サステナビリティ基本方針を制定しました。

2050年のカーボンニュートラル達成に向け、両工場の高割合カーボンフリー電力の導入検討、茨城工場ボイラー設備における脱重油燃料の検討、両工場の老朽化施設更新時の環境負荷低減設備の導入検討、環境負荷低減資材・材料採用検討など具体的活動と環境配慮技術を推進するとともに、社員の環境意識を向上に努め、全社一丸となり、環境理念、環境方針に基づき、環境の保全、維持、改善に次年度も積極的に取り組んでまいります。

- ※1 Scope 1 : 事業主自らによる温室効果ガスの直接排出 (燃料の燃焼、工業プロセス)
Scope 2 : 他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出
Scope 3 : Scope 1、Scope 2 以外の間接排出 (事業者の活動に関連する他者の排出)
- ※2 2000年に設立された国際的な環境非営利組織であり、世界の国家、企業、都市、地域に対して、Co2 排出量や気候変動の取り組みに関する質問書を投げかけ、その環境活動への取り組み状況を評価し公表している。

● 環境経営方針について

環境経営方針については、見直しの必要はありません。

● 環境経営目標及び環境経営計画について

2050年のカーボンニュートラルを目指して、前年度に続き、親会社が策定した2030年の目標を達成することを当社のテーマとする。目標達成に向けた目標数値を設定するとともにタイムリーに数値を把握できるようにすること。設備については、更新時の環境負荷低減設備の導入の計画、電力については、自家発電、自家消費の可能性の追求、燃料については、脱重油、軽油、ガソリン等の検討も視野に置いて、中長期的な環境経営目標の達成に向けた環境経営計画の見直しを図ること。

● 実施体制について

実施体制については、現在の体制を維持しながら、目標達成には、新しい技術を取り入れていかなくてはならないので、環境関連の技術の進展を見極める部署が必要であり、体制の見直しの検討が必要である。

技術部を中心に栃木・茨城両工場、その他部門と連携を強化して、情報収集や調査を行い、予算の範囲内で中長期的な計画を策定すること。

(以上)